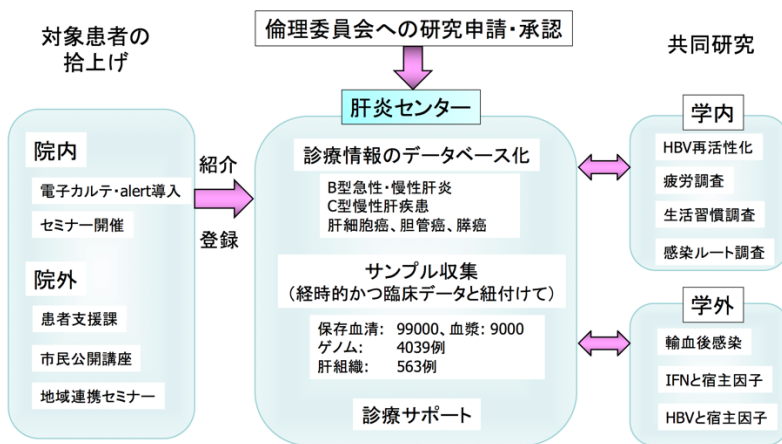
	シーズ名	慢性肝疾患患者の長期予後に関与する遺伝的背景を加味した個別医療の開発
	氏名・所属・役職	田守 昭博・医学研究科 肝胆膵病態内科学・病院教授

<概要>

肝臓病は、自覚症状を伴わず進行する慢性疾患である。その進行には遺伝的背景と生活習慣が関与していることが知られている。我々は、これまでウイルス性慢性肝疾患症例に対して抗ウイルス治療を実施し、その後の経過を観察している。治療法の進歩とともにウイルスの排除率は向上し、大多数の症例で肝炎ウイルスは消失あるいはコントロールできている。そのため今後、患者の予後は抗ウイルス治療の効果ではなく、新たな要因すなわち肝線維化の治癒過程には遺伝的背景が関与することが予測される。この点に着目して新たな予後関連バイオマーカー探索と遺伝子多型を加味した個別医療の確立を目的としてシーズ研究を計画し、進行中である。

**ウイルス性肝疾患における研究戦略**



<アピールポイント>

ヒトを対象とした研究を継続しており、より短期間に実用化が可能と考える。探索された課題を倫理委員会承認のもと実証する土台を確立している。多方面との連携を行い、新たなシーズを探索している。

<利用・用途・応用分野>

慢性肝疾患患者の個別医療の開発。  
肝炎ウイルス治療後の予後改善を目指した治療介入法（薬剤）の確立

<関連する知的財産権>

論文報告：Polymorphisms in MICA, but not in DEPDC5, HCP5 or PNPLA3, are associated with chronic hepatitis C-related hepatocellular carcinoma. Hai H, Tamori A, et al. Sci Rep. 2017;7(1):11912. doi: 10.1038/s41598-017-10363-5.

Stagnation of histopathological improvement is a predictor of hepatocellular carcinoma development after hepatitis C virus eradication. Motoyama H, Tamori A, et al. PLoS One. 2018;13(3):e0194163. doi: 10.1371/journal.pone.0194163.

<関連するURL>

<http://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/>

<他分野に求めるニーズ>

ハイスループットな遺伝子解析技術、基礎研究から選出されたバイオマーカーの臨床診断への応用

キーワード	慢性肝疾患、生活習慣、遺伝子診断、バイオマーカー
-------	--------------------------